

DAIBIKYO

2023

令和5年号

VOL

64

大美協
会報



■特集
ウィズコロナあとさき

大垣美術家協会

こんな時代の中で

緊張感なし よーしなどと
意気込んでもおりませんから
失敗はございません。
泣きもしません。
やったーなどと喜びません。
私は生成AIですから…
ポトンと落とした筆のあと
一筆ごと泣き笑い。
一杯やりたい いい気分
失敗もあり成功もあり
それが創作活動。
あなたそのままの生成(きなり)
楽しんでいますか…



大垣市長 石田 仁

皆様には、心新たに新年を迎えられました事、心からお喜び申し上げますとともに、この度、「大垣美術協会会報」第64号が刊行されます事、誠におめでとうございます。

大垣美術家協会におかれましては、昭和34年の創立以来、60年以上の長きにわたり、芸術文化活動の推進に格別のご尽力をいただいております事、厚くお礼を申し上げます。

また、会員の皆様には、「大垣市美術展」の運営協力や、「大垣美術家協会展」をはじめ、各種展覧会への出品などを通じて、芸術文化の普及と発展に寄与していただいております事、心より敬意と謝意を表する次第でございます。

本市といたしましても、アフターコロナの時代へと移行する中、誰もが暮らしの中で質の高い文化に触れ、豊かな感性と創造性を育む「文化の薫り高いまち」を目指し、芸術文化事業の推進と、地域の活性化に取り組んでまいりますので、皆様には、より一層のご支援とご協力をお願い申し上げます。

結びに、大垣美術家協会の更なるご発展と、会員の皆様のご活躍とご健勝を心から祈念申し上げ、ご挨拶とさせていただきます。



大垣美術家協会 会長 境 敏幸

猛威を振るった新型コロナウイルス感染症も感染症法上の位置づけが2類相当から季節性インフルエンザと同等の5類に引き下げられ、様々な場面で少しずつコロナ前の生活を取り戻しつつあります。大垣美術家協会の活動も秋の研修旅行など久しぶりに開催することができ大変嬉しく思っております。

当協会は昭和34年の創立以来、大垣市の美術・芸術・文化の更なる発展を目指し、会員の皆様のご尽力により一歩ずつ活動の輪を広げてまいりました。地域が誇る伝統をいかに次の世代へと継承し、磨きをかけていくのが当協会に課せられた重要な責務といえます。

私も大垣共立銀行も地域の芸術文化の発展を願い、平成23年大垣駅前に「OKBギャラリー」を開設いたしました。「大垣ゆかりの作家を中心とした洋画展」や大垣市内の小中学生の作品を展示した「ジュニア水彩展」など銀行主催の企画展を行うとともに、地域の皆様にも作品展示スペースとしてご利用いただいております。また、障がい者の方や地元ゆかりのアーティストの芸術活動のご支援にも積極的に取り組んでおります。

今後も様々な方面から、市民の誰もが身近に芸術文化に触れる機会を創出し、文化の薫り高い大垣市の魅力を広く発信してまいりたいと考えております。

会員の皆様の益々のご活躍を心からお祈りいたします。



大垣美術家協会 理事長 久野 悟

コロナ禍でもがいた3年間を乗り越え、今年度は大美協展・総会・講演会・西濃美術展・研修旅行・新年互礼会・会報発行、すべて実施することができました。これ偏に行政・賛助会員・会員の皆様のご支援・ご協力の賜物と厚くお礼を申し上げます。

また、各事業の運営に当たり、年間事業計画の通り役員会(年8回)・理事会(4)・各推進委員会(6)・会報委員会(5)等開催。大美協展等では、作品受付・展示・会場当番等を理事で分担。理事の平均年齢は80歳前後と高齢化が進む中、【大美協の3点の主張】の具現化を図るべく奮闘して頂きました。本当にありがとうございます。

私の知人で、こんな方があります。
・傘寿記念で初の個展開催。今年は続けて2回目の個展。そして「80歳代、人生で一番気楽で面白い!」と毎月登山にも。(男性A)
・「今、85歳。少し落ち着いたので、これから水彩道具を買って始めたい。」(男性B)

(自分がその年になったらどうしているだろうか?)存在すら危ぶまれるところですが、理事の方をはじめ人生の先輩方の力強い生き方に、逆に背中を押される毎日です。

皆様には、この会報とともに5月の大美協展のご案内も送らせていただきました。皆様ご自身もご家族も心身ともに健康で、是非ご一緒にすることを祈念しております。

第65回
大垣美術家協会展

2023年

5月18日(木)～21日(日)

■ 午前9時～午後5時(最終日は4時迄)

大垣市スイトピアセンター
文化会館

■ 4F A・B・C 3F A・C

出品点数

- 招待出品 11点
- 日本画 13点
- 洋画 52点
- 書道 45点
- 彫塑・工芸 23点
- デザイン 5点
- 写真 46点

■ 合計 195点

[特別展示] 大美協65年の歩みパネル展



● 入場者数

..... 1,163人

協力事業

文化フェスティバル2023

第35回
西濃美術展

2023年

9月7日(木)～10日(日)

■ 午前9時～午後5時(最終日は4時迄)

大垣市スイトピアセンター
文化会館

■ 4F A・B・C 3F A・B

出品点数

- 招待出品 9点
- 日本画 19点
- 洋画 55点
- 書道 55点
- 彫塑・工芸 23点
- デザイン 6点
- 写真 49点
- 合計 216点

● 入場者数 1,159人

コロナが5類になっても出品数増えず



写真家の心は 自分の写真 を写すもの

記録と表現

◆
写真家
近藤誠宏氏
◆
二科会写真部前理事長

写真家・近藤龍夫の次男として昭和16年5月23日。
先の大戦の年に現住所で生まれた。

順調に育ち、県立岐阜商業に入学。入学式
の大石校長先生の挨拶が今も思い出される。
「君たち、天下に誇れる有能な資質を持った生
徒が入学してくれました。3年後には学業はもと
より、優秀な健康体で卒業されることです。大切
に過ごして下さい。」だった。学業成績の言葉は
なく、元気な健康が優先だったから遊べると
思った。

当時は、全てに何もない時代であった。岐阜
商業を選んだのも高校野球で甲子園出場の応
援に行けるであろうことが目的であった。

3年次、私の席の後ろは高木守道さんで後の
中日の監督で、彼は私と違い文武両道で優等
生だった。

その頃になると写真への想いや将来が見え
てきたので担任に相談して進学を決めた。担任
は「近藤、後ろの席で受験勉強しろ」と言われた。
父親には東京は駄目と言われ、名古屋の愛知
大学法経学部を受験。あこがれの写真家、東
松照明さんの出身大学に入学できた。心のうち
にはフォトジャーナリストへの道があった。

多くの先輩が写真家として旅立っている写
真部に入部した。

1964年、大学を卒業。上京、写真評論家の
田中雅夫先生の紹介でマスメディアの広告代
理店フォトルーム部に入部。当時、ここは日本一
規模のスタジオがあり新車の撮影が出来た。暗
室は4×5までのスライド現像ができ、ライトマン、
進行、タレントルーム、スタイリスト、カメラマン、小
道具係を合わせると総勢53人の陣容だった。ス
タジオは毎日忙しく、タレント待ちで夜中も使用さ
れた。

1966年、スタジオワークを習得したものの広告
写真より自分の世界の写真を写したく退社した。

1973年、写真家としての実績が認められて、
公益社団法人日本写真家協会に入会。32才、
終身番号955。やがて息子の龍宏も入会したか
ら、父子三代の所属は協会初となった。

父と写真活動をともにするようになったが、第
一線で学んできた自負心が生意気になり父に
反発。風土性ではなく違う方向を求めて、石油
公害で関心を集めていた四日市石油コンビ
ナート地帯を選んだ。

フォトジャーナリストとして使命感に駆られた
挑戦だった。公害の現場での撮影は厳しく、夜
の撮影では時には不審者と疑われ声をかけら
れた。

呼吸困難な患者、目には見えない公害を目の
前にして模索し、初個展「匿名の町」を1973年、
銀座ニコンサロンで発表した。

花の銀座での個展に多くの写真家が来館、
アドバイスを受けた。中でも「君の写真は場所
か」には考えさせられた。告発性よりも叙情性に

偏り、公害の内面に入り込めず、表現が弱かつ
たのであった。

個展後、暫くカメラを持たず考えた。「記録と
表現」が生涯のテーマとなった。

自分の写真に目覚め、美術団体の公募では
最大規模の二科展に応募し、9年後に特選2
回・入選7回で会友に推挙された。その年、中
部二科展に応募して外遊賞を受賞した。

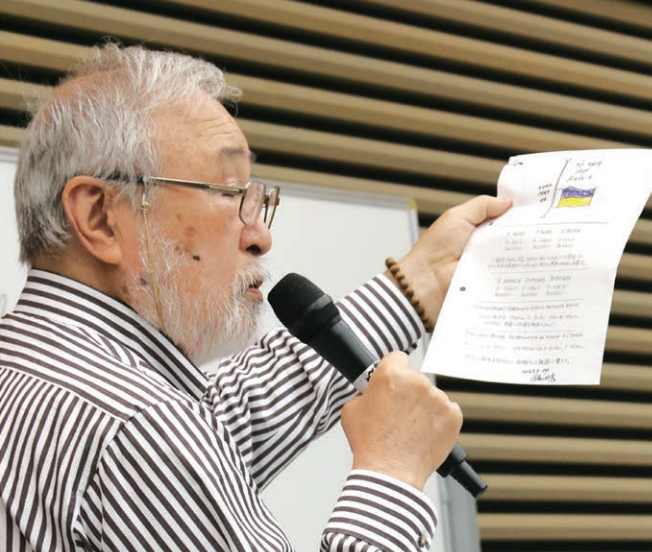
外遊先を決めかねていたとき、岐阜新聞の記
事に岐阜県議会議員遺骨調査団が郷土部隊
玉砕の地、中部マリアナ諸島への出発を知り、写
真家として同行を申し出たところ快諾を得た。そ
の後、個人的にも3度訪れ調査、収骨、取材した。

サイパン島・テニアン島。ジャングルの道なき
道は標識もなく、生還者の記憶に委ねて歩き、
方向もつかめず漂っていた。中でも島の北部の
日本に少しでも近いところには自らが掘ったであ
らう一人窟が多くあった。ジャングルのタガンタ
ガンの雑木の根が、若くして亡くなった名もない
兵士の遺骨に幾重にも絡み付き、頑丈で、手で
は離せず、繰り返しているうちに涙がとめどもな
く流れた。



略歴

- 1941岐阜市生まれ。愛知大学法学部卒。父写真家近藤龍夫氏の下で、写真活動に入る。
- 1974二科会写真部会友推挙、中部二科会より外遊賞受賞。以後海外取材増える。
- 1988「美濃の地歌舞伎」発刊、ライフワークとなる。写真集出版多数
- 2018二科会写真部理事長就任、2022退任
- 2022文部科学省「地域文化功労者」受賞



遺骨を前に知らされることのない人、一人一人の死。短い人生、心なき姿。これらの強烈な体験に、心を終生のテーマとする動機になった。

帰国後、日本人の心のふるさと京都へ。以前よりも積極的に行くようになった。2年後、銀座ニコンサロンで「法悦視点」を発表した。この頃にはモノクロに抒情性を写し込む私の世界が少し



ずつ形作れるようになってきた。

7年後、写真集『京都点々累々』の出版記念展として銀座富士フォトサロンで開催。この時のことがいまだに忘れられないでいる。それは、序文をお願いした濱谷 浩先生は奥さんが危篤状態にもかかわらず、快く引き受けていただき、序文の内容も私の心をはるかに越えたものだった。自筆の文をそのまま転載した。

信州伊那谷に操り人形浄瑠璃が5か所あることを知り、取材を開始した。

その内の黒田人形浄瑠璃の舞台は国宝であり、毎年神社の催事として上演されていた。大人の公演に先駆けて地元の中学生の課外活動として上演されている。

詰め襟の学生服、セーラー服による上演姿、地域の伝承伝統を受け継いでいく姿に心奪われた。

1998年、新宿ニコンサロン「黒田操り人形浄瑠璃」として発表した。

黒子姿で操る人形浄瑠璃よりも、やがて村人が、化粧鮮やかな人間そのものが演じる歌舞伎が全国にひろまっていった。我が地域の中仙道の村々でも地歌舞伎公演が、全国三大地としてささやかれるようになっていった。

大美協 文化講演会

大垣美術家協会 

そんなおり、岐阜新聞社出版室より岐阜県内の歌舞伎本を出版したいとのことで依頼され、これがライフワークとなった。

歌舞伎の魅力は、非日常性、準備する姿を追いながら、役者が役に入り込んでいく姿が、すごく新鮮に見えた。内なる心の姿が出てくる。それを自分が動きを読み込んで捉える。競合と云うのだろうか、このやり取りがいい。



大学でロシア語を専攻したことで少しわかる。こうした講演の場だがロシアのウクライナ侵攻について訴えたい。ヤークリチャーチ（私は叫ぶ）「ロシア兵士よ 野蛮で非情な戦争を止めよう。あなたは戦争を駄目とし、故郷、そして祖国に帰ろう。」

これらの取材分は1999年『美濃の地歌舞伎』として岐阜新聞社から発行された。以後『地歌舞伎振付師 松本団升』を撮影・出版。『ぎふ地歌舞伎衣裳』撮影・出版。これらの振興、保存活動をしているのが相生座館長・中仙道ミュージアム館長の小栗幸江さんであり、地域伝承伝統文化部門における彼女の存在は多大である。私が地歌舞伎の取材を始めたときは21団体が、現在の活動団体は32団体と云われている。

今回、展示している写真は、大垣美術家協会の会員である高木さんが考案された大変便利な額縁に入れている。じっくり見ていただきたい。

写真家である以上、写真愛好家との接点はある。指導では表現者としての心の持ちようを粘り強く伝える。単写真よりはテーマ性のある組写真、数点出品のグループ展より個展や物語のある写真集の発表を働きかけている。

権威をおもねる姿勢を厳しくいさめ、写真は己の心の写し絵。心の純粋性があればあるほどに、いい作品ができる。

入選・入賞せんが為、選者の傾向に合わせるようでは己の表現ではなくなる。

心したいものである。



今回の、近藤誠宏講師の講演は、平成14年「美濃の地歌舞伎」について」に続き、2回目となるものです。

また、講師の父親であります近藤龍夫氏も昭和59年「写真の話」で講演して頂きました。

第72回 大垣市美術展

2023 (令和5年度)

永いコロナ禍の中で変則的な開催が近年つづいた大垣市展が、やっと正常な形での開催となりました。開場テープカット、各部会場で講評会。市展ならではの懐かしい風景が帰ってきました。

■と き 令和5年10月14日(土)～22日(日)
 ■ところ 大垣市スィットピアセンター(文化会館3.4階)
 展示室4F A.B 3F B.C
 ●展示点数-214点



開場式テープカット



表彰式



会場での講評会

第72回大垣市美術展

◆受賞作品◆

誌上展

受賞おめでとうございます

日本画



■市展賞-「シルクロード追想」
 杉野 茂樹



■市長賞-「里の春」 山口 和子
 ◆議長賞-「山葵田」 古川 幸代

書道

◆議長賞-「狩行句集より」 平野 春湘
 ◆優秀賞-「鱗風亀龍」 河村 一雄

デザイン

◆奨励賞-「KINGYO」 如月 れいな

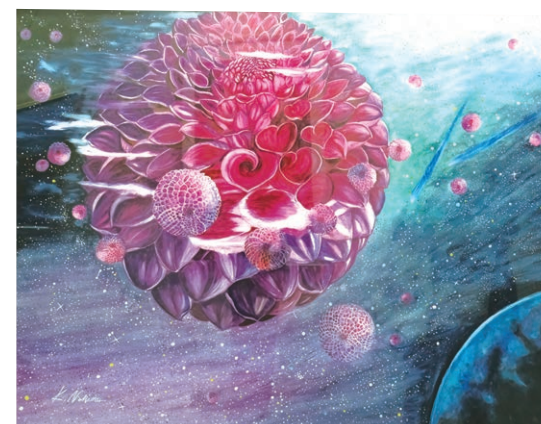
受賞作品誌上展

(大美協会員の内、市展賞、市長賞の作品のみ掲載致しました。)

大垣美術家協会



洋画



■市展賞-「宇宙のダリア」 中野 和代



■市長賞-「静穏」 所 陽子

◆優秀賞-「執金剛神」 磯部 範彦・「王家の谷のファンタジー」 森 多江子

◆奨励賞-「山桜」 石見 節雄・「気分は最高」 吉田 美幸・「燃ゆる」 磯崎 裕子・「白い器」 飯沼 孝司

彫塑工芸



■市展賞-「能面 恵比寿・大黒」 箕浦 浩二
 ◆教育長賞-「七宝 咲みだれ」 馬淵 たず子
 ◆優秀賞-「能面 大悪尉」 大江 英



■市長賞-「こころの花」 澤村 典子

写真



■市長賞-「草間彌生の世界」 池田 繁行

◆議長賞-「力持ち」 小竹 隆
 ◆教育長賞-「文楽を受継ぐ」 神戸 孝司
 ◆優秀賞-「薄氷の煌き」 高田 輝男
 ◆奨励賞-「まきばの朝」 木村 定昭
 「息を合わせて1.2.3」 江上 瑠美子
 「少女の意気込み」 高木 早苗

大美協 —この一年—

ウィズコロナあとさき

いろいろありました。
2023年(令和5年)

ウィズコロナの中での内憂外患、尽きない国ごとの抗争。
円安に物価高、わが大美協でも会員数、出品者の減少など、
悩みの種は尽きません。2024年、腹のタツじゃなくて良き
昇竜の年でありますように...

2022.2～ロシア・ウクライナ
抗争収まらず

2023.9 ガザ地区
を巡って
ハマスと
イスラエルの抗争激化



京都の
京セラ美術館、福田美術館へ...
研修旅行-4年ぶりに開催
2023.9/23



8月から
インフルエンザ
流行の異常
新型コロナウイルス
第5類に移行

2023.5



大美協HP (ホームページ)
制作準備委員会発足



祭の復活
コロナ禍で中止になっていた
西美濃一帯の祭行事が再開



藤井聡太竜王・名人
史上最年少(21才)で
将棋八冠達成



4年ぶりに
大垣市展の
開場式開催
各部会場では、主任審査員に
よる講評会も実施

止まらない
諸物価の高騰
公共料金・生鮮食品・
生活用品など、
数万点の値上げラッシュ!



会からの連絡、会員相互の
交流に...
理事会のライン開設
2023.2

2024. 1/1



列島
震撼!
能登半島巨大地震



わが会の
名誉顧問で
日展副理事長
日本芸術院会員の
土屋禮一氏の
土屋禮一展-開催
サイトピアセンターアートギャラリーで開催
9/23～11/26



地球沸騰!
世界で異常気象で災害続発
東京の真夏日記録更新



2024.2 第64号
無事に発刊

ウィズコロナあとさき

大垣美術家協会研修旅行

■2023.(令和5年)9月23日(土・祝日)

京都市京セラ美術館・福田美術館 見学 参加者—43名

コロナ禍の中、3年間延期になり、
皆さんのご希望多い中、やっと実施の運びとなりました。
初秋の京都路、二つの美術館を巡って、
無事帰って参りました。



フランス、ルーブル美術館蔵の
16～18世紀の名画74点を
「愛を描く」の
タイトルで展示 (6.27～9.24)



画家、竹久夢二の
肉筆画など
「竹久夢二の全て」を
鑑賞 (7.14～10.7)



京都市美術館改め
新装になった京セラ美術館前景

話が弾む昼の時間
(嵐山近くの食事処で)



京都嵐山
福田美術館前にて



昼食後、自由時間は
嵐山、渡月橋付近の
散策

4年ぶり

大垣美術家協会新年互礼会

■2024.(令和6年)1月21日(日) 午後6時～8時
大垣フォーラムホテル3F(青雲の間) 参加者—58名

4年ぶりの開催とあって、久しぶりのあの顔、この顔、ご無沙汰の話題も弾みます。ご無事を祝い、健康を讃えあって、めでたく納会致しました。



石田大垣市長ご挨拶



令和6年大垣美



境会長挨拶

懐かしい顔、久しぶりの再会に
会話も弾みます。



こんなお料理でした



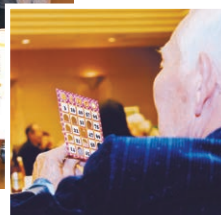
久野理事長挨拶



新しい仲間が増えました。



ビンゴで盛り上がる会場



<p>令和5年3月4日(土)～3月5日(日)</p> <p>人物デッサンの会</p> <p>代表 志知 正弘</p> 	<p>令和5年3月24日(金)～3月26日(日)</p> <p>養老絵画作品展</p> <p>代表 西脇 義照</p> 	<p>令和5年4月6日(木)～4月9日(日)</p> <p>遊画会展</p> <p>代表 間下 弘</p> 
<p>令和5年4月14日(金)～4月16日(日)</p> <p>彩友会展</p> <p>代表 傍島 庸光</p> 	<p>令和5年4月14日(金)～4月16日(日)</p> <p>百彩会・創彩会合同展</p> <p>代表 飯沼 孝司</p> 	<p>令和5年4月20日(木)～4月23日(日)</p> <p>OKBアート展</p> <p>代表 磯崎 勝利</p> 
<p>令和5年4月28日(金)～4月30日(日)</p> <p>写友会かき写真展</p> <p>代表 杉田 基</p> 	<p>令和5年4月29日(土)～5月28日(日)</p> <p>アートギャラリーYORO 滝音</p> <p>代表 西脇 義照</p> 	<p>令和5年5月26日(金)～5月28日(日)</p> <p>第79回 六酔会展</p> <p>代表 久世 夢二</p> 
<p>令和5年6月2日(金)～6月4日(日)</p> <p>第81回 水曜会油彩画展</p> <p>代表 吉田 良策</p> 	<p>令和5年6月3日(土)～6月4日(日)</p> <p>第30回 清篆会展</p> <p>代表 増井 茂</p> 	<p>令和5年6月3日(土)～6月4日(日)</p> <p>第45回記念 清泉社書展</p> <p>代表 浅野 誉子</p> 
<p>令和5年6月8日(木)～6月11日(日)</p> <p>絵画三昧 志知佳子・正弘作品展</p> <p>代表 志知 正弘</p> 	<p>令和5年6月9日(金)～6月11日(日)</p> <p>林 孝弘・都美子 二人展</p> <p>代表 林 都美子</p> 	<p>令和5年6月13日(火)～7月10日(月)</p> <p>第18回 水彩会展</p> <p>代表 吉田 美幸</p> 

<p>令和5年6月16日(金)～6月18日(日)</p> <p>第24回 写団望写真展</p> <p>代表 野部 博子</p> 	<p>令和5年6月16日(金)～6月18日(日)</p> <p>第44回 中日写真協会西濃支部写真展</p> <p>代表 高橋 二三夫</p> 	<p>令和5年6月16日(金)～6月18日(日)</p> <p>第20回 大垣光遊会写真展</p> <p>代表 佐々 寛己</p> 
<p>令和4年7月8日(土)～7月9日(日)</p> <p>第50回 西濃書道連盟会員展</p> <p>代表 安田 弘峰</p> 	<p>令和5年7月11日(火)～8月4日(金)</p> <p>第5回 遊彩会展</p> <p>代表 所 陽子</p> 	<p>令和5年7月20日(木)～7月23日(日)</p> <p>第40回 ネオ・ダール展</p> <p>代表 伊藤 文夫</p> 
<p>令和5年7月28日(金)～7月30日(日)</p> <p>遊画会 間下弘 回顧展</p> <p>代表 間下 弘</p> 	<p>令和5年8月7日(月)～8月31日(木)</p> <p>第68回 垂井百景</p> <p>代表 久野 悟</p> 	<p>令和5年8月10日(木)～8月27日(日)</p> <p>南美展</p> <p>代表 西脇 義照</p> 
<p>令和5年9月1日(金)～9月3日(日)</p> <p>フォト写心</p> <p>代表 種田 昌史</p> 	<p>令和5年9月15日(金)～9月17日(日)</p> <p>フォトクラブ写真展</p> <p>代表 安部 寛</p> 	<p>令和5年10月26日(木)～10月29日(日)</p> <p>藤原久美子と一門の能面作品展</p> <p>代表 藤原 久美子</p> 

ご冥福をお祈り致します。

賛助会員 山川 隆司様(山川医院 院長)

会員 上田 省吾様(洋画)

会員 牧 明様(写真)



ありがとうございました 賛助会員様

株式会社 大垣 共 立 銀 行
イ ビ デ ン 株 式 会 社
西 濃 運 輸 株 式 会 社
太 平 洋 工 業 株 式 会 社
河 合 石 灰 工 業 株 式 会 社
揖 斐 川 工 業 株 式 会 社
岐 建 株 式 会 社
矢 橋 工 業 株 式 会 社
サ ン メ ッ セ 株 式 会 社
大 垣 西 濃 信 用 金 庫
日 本 耐 酸 塩 工 業 株 式 会 社
岐 阜 倉 庫 運 輸 株 式 会 社
大 垣 瓦 斯 株 式 会 社
株 式 会 社 ホ ン ダ カ ー ズ 東 海
ク イン テ ッ サ ホ テ ル 大 垣
株 式 会 社 大 光
株 式 会 社 三 輪 酒 造
株 式 会 社 ア レ ッ ク カ ワ イ
オ イ ダ 額 橡 有 限 会 社
ギ ャ ラ リ ー は た の
金 蝶 園 総 本 店
(有)タケナカ商店・タケナカ文房具店
株 式 会 社 大 垣 ケ ー ブ ル テ レ ビ
小 菅 巧 芸 社
医 療 法 人 石 泉 会 和 田 医 院
山 川 医 院
株 式 会 社 箕 浦
安 田 電 機 暖 房 株 式 会 社
株 式 会 社 エ ヌ ビ ー シ ー
株 式 会 社 大 垣 自 動 車 学 校
株 式 会 社 セ リ ア

編集後記

晴れたり曇ったり、コロナは晴れても心は闇だ、とは申しませんが、5類になったコロナに代ってのインフルエンザ騒ぎ。

収まりのつかないウクライナの紛争、またまた始まったガザ地区での抗争。

諸物価のこれでもかの高騰、円安の再騰、下がらないガソリン価。

一方では人知、人力無用の生成AIの進化。今、人の世は“晴れ”ているのでしょうか。

4年ぶりに、会の研修旅行も新年互礼会も再開されました。大垣市展の開場テープカットの懐かしい風景も甦りました。

これからこれから、せめて心は“晴ればれ”と、美術、芸術を友として過ごしていきましょう。



大垣美術家協会

編集委員

日本画……堀	みどり
洋画……小	薮 達也
書道……小	川 東 歩
彫塑工芸…	山 口 實
写真……林	孝 弘
デザイン…	金 森 一 意 (会報委員長)

[発行期日] 令和6年2月

[発行] 大垣美術家協会

[印刷] サンメッセ株式会社